

第84回

山陽新聞賞

山陽新聞社は毎年、文化、社会、産業などの分野で、地域社会に貢献した個人、団体に「山陽新聞賞」「山陽新聞奨励賞」を贈り、功績をたたえています。

第84回は山陽新聞賞に個人5人、山陽新聞奨励賞に



個人1人と2団体が決まりました。受賞者・団体には賞状、メダル（日本芸術院会員蛭田二郎氏制作）＝写真＝と賞金を贈ります。贈呈式は8日に岡山市内で開きます。（受賞者の業績は14、15面に掲載。敬称略）

山陽新聞賞

文化

中池 竺舟(岡山市)
＝本名・克直＝

武藤 順九(津山市)
＝本名・順一＝

社会

松山 正春(岡山市)

宮石 智(岡山市)

地域への貢献たたえる

産業

野崎 泰彦(岡山市)

山陽新聞奨励賞

文化

大森 静佳(京都市)

福山文化連盟邦楽部
(福山市)

社会

山中一揆義民顕彰会
(真庭市)

山陽新聞社

©山陽新聞社 無断複製転載を禁じます。

産業功労

岡山県経営者協会会長

野崎^{の やさき}

泰彦^{やす ひこ}さん(71)

岡山市中区門田屋敷



労使の対話 経営の礎

良好な労使関係の構築が経済復興に欠かせないとして、戦後間もない1947年に発足した岡山県経営者協会（岡山市）。働き方改革関連法の施行（2019年）を控えた17年、「新時代にふさわしい労働環境づくりを提案する」と抱負を述べ、会長に就任した。

企業経営に関する課題の解決に向け幅広く事業を展開。ハラスメント対策や女性活躍など時代の要請を踏まえたテーマで人事・労務担当者の交流勉強会を開く。25年には県や連合岡山と賃上げへの環境整備を目指す「おかやま政労使会議」の共同宣言をまとめた。

人手不足や物価高で企業が賃上げを迫られる中、「物価上昇に負けない賃上げは必要だが、収益を伴わなければ倒産などのリスクを招く」と指摘。データに基づく冷静な議論と選択に加え、DX（デジタルトランスフォーメーション）による生産性向上や適正な価格転嫁の重要性を説く。

自身も1991年から34年間、江戸期から続くナイカイ塩業（倉敷市）の社長を務めた経営者の一人。「時代や働き方は変わっても労使が対話を重ね、より良い解を探り続けることが経営の礎」と実感を込めて語る。（大河原三恵）

